

Space

母の肖像

母の肖像

石坂洋次郎

No. 27.6.23
 婦人倶楽部 9月号

（四十九）

足達が東京を去ってしまふ。私の上には
 平穩な日かつぬた。八重子の手紙に書か
 た中村の行状は、私にとつて大まな痛手い
 ったが、月日かしてしんにその痛手を癒して
 した。

人南は誰だつて完全なものではな
 ない。若し
 友人達は、觀念が混同なりで、自分
 の友人を完全な人格者の如くに考
 らうが、それは、自分自身の結
 びを、相手は、長所と短所を併せ
 もつた。世
 間には、ありふれた人南の一人に
 すぎない。自分
 自身も、若しに甘え、考へ、た
 らば、立派な
 人南の如きこととを、認め、得
 らう。